



林業の担い手に対する支援について

新潟県林業労働力確保支援センターでは、林業に関心を持ってから林業の担い手としてキャリアアップをしていく各段階で、情報提供や講習・研修などにより林業就業希望者・就業者の支援を実施しています。

【林業の担い手へのステップ】

林業就業希望者

森林の仕事ガイダンスなどでの情報収集

01

就職前の準備

林業に必須となる知識・技能の習得や
現地見学、就職相談など

02

就職活動

相談窓口

林業労働力確保支援センター(グリーンワークセンター)

※新潟県林業労働力確保支援センターでは、県内林業の求人情報を取り扱っており、就業相談も随時受け付けています。

森林組合や林業事業体へ就職

就職後のキャリアアップ

働きながら実践的な技術を習得

03

林業の担い手へ!

間伐

植栽後20~30年程度経過すると、造林木(スギ)同士で競争が始まり、次第に優劣が付いてきます。そこで優勢なものを残し、劣勢のものを除去することで、主伐時に価値の高い林を作ることが目的に実施します。残す木の選別や、狙った方向に木を倒す技術など、間伐従事者には高い能力が求められます。この作業は主伐まで定期的に繰り返し行われます。



主伐

林業の最終段階で、収穫とも言います。新潟県の人工林では、主伐まで80年程度かかります。



枝打ち

節の無い優良な木材を生産するために行いますが、雪害や病虫害の防止などの効果もあります。樹皮剥けを防ぐため、基本的には晩秋から冬期の生長休止期に実施します。



地拵え(じごしらえ)

植栽するための準備作業です。スギ等の伐採跡地に残った枝葉等を集め、筋状に配置したり、火を入れて焼き払ったりして、植栽しやすい環境にするものです。



林業のキホン作業

皆さまの林業に対するイメージはどのようなものでしょうか。林業というと、人力作業が多いように思われるかもしれませんが、近年では、新しい技術の導入や機械化によって、より安全で効率的に作業を行うことができるようになりました。ここでは、そんな林業の仕事の流れと内容の一部を紹介します。



下刈

苗木を植えてから10年程度、毎年行う作業です。草を刈らないでおくとし、スギに日光が当たらなくなるため、スギが小さいときは年2回行います。



植栽

苗木を植える作業です。縄などを張って植える間隔をきれいに揃えます。苗木には土が付いておらず乾燥に弱いことから、植栽地に仮植し植える分だけ掘り出して使います。近年開発されたコンテナ苗では、土がついた状態の苗木を専用器具で開けた穴に挿し込むだけで植え付け完了となるため、作業性が大幅に向上しています。

